
ゼロの研究

蓬 蛭也

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ゼロの研究

【コード】

N1538C

【作者名】

蓬 蛸也

【あらすじ】

僕はある日白い花を見た。確かに見たそれは、しかしこの地ではあと100年咲かないといわれているもので…

「あ……」

綺麗だ、と思った。

廃虚の影にひっそりと咲いていた。

もう咲かないとゼロも言っていたのに。

珍しい物を見たから瓦礫の山を全速力で駆け戻った。早くゼロに教えなくちゃいけない。

きっとゼロは驚くだろう。

もう少し……

もう少しで研究所だ……

「ゼロ！花！花だよ！！」

「え！？」

小さいロケットの大部分を占める実験室。

陰気なムードに合わない輝く金の髪の毛のゼロは、小さくて役に立たなさそうな丸眼鏡を鼻頭に乗せたままこつちを見た。

「花！ゼロ、花だよ！」

何やら動き回る機材にどつかねながらもゼロはうつろんな顔を崩さない。

ややあつて堅苦しく口を開いた。

「この土地はあと百年は植物が生えないはずだ……」

「でっ……でも……！」

「サクイア」

見たんだもん。

そう言おうとしたが、やめた。ゼロは研究絡みになると自分の様な素人の意見は雑音と一緒にだから。

ゼロは、不機嫌そうに耳をいじるながら詰まれたノートの山から無造作に一冊のノートを引き抜いた。

タイトルは”地球 NO.52”。ゼロが地球に来てまとめた物だった。

「地球。100年前の核戦争で地上の物は全て崩壊した。」

眼鏡越しに灰色の瞳は形容し難い程雑な文字を追う。

「放射線の濃度は地球基準で言うと、生物の存在できない程濃い。特定の植物以外は以降100年は生えない」

ばたむ。

軽い音をたてて閉じたノートを崩れきった山に放るとゼロは言った。

「サクイア、ありえない」

まるで自分の考えは100%間違っていない、とでも言いたげな言葉にむっとした。

確かにゼロは頭の良い研究者だ。

だけど花を見た。

それも事実なんだよ、とゼロに大声で言ってやりたい気分だ。

この話はおしまい。

そう言つてゼロは、研究所の高く積まれた本の隙間を慣れた風に通
り抜けて

扉の向こうに消えてしまった。

瓦礫の向こうに白い花を見た。

けれどそれはその日の夢の中での話で、

あの花はもう一度見に行った時には消えていた。

確かに見た、白い花。

荒廃した地球に咲いた一輪の花は幻覚だったのだろうか。

もし、本当にもしも、風すら吹かないこの地に花が咲いていたのだ
としたら

僕たちは人間という生き物に会えるかな。

ゼロ、君はもし会ったら何を聞く？

何故原子爆弾を使ったのか、聞くのかい？

それとも、何故自分がここに来たのか聞くの？

そんな事を考えながら僕は空を見上げた。
そこには青く綺麗な地球の空があって、薄く雲が膜をはっている。

いつか

いつか僕たちの世界もこうなるよね。

ねえ、ゼロ？

ふと蘇ったのは僕の造られたゼロの故郷。

その淀んだ空気の向こうの育ち過ぎた科学が見えた。

「こつちの方がよっぽど空気が綺麗だよ」

一つ深呼吸して、ゼロの宇宙船へ走った。

(後書き)

地球はどうなっちゃうのかなあ、と思いました。核爆弾が競争みたいに造られ、実験されている今。先の戦争を体験していない私には文などでしか情報は得られません。幼い頃から平和教育をつける私にとっては絶対に体験したくないものです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1538c/>

ゼロの研究

2010年10月9日21時43分発行